

- (4月)  
 3日 民主党第4区 総会  
 8日 中丸小学校 入学式  
 9日 東海南中学校 入学式  
 10日 須和間幼稚園 入園式  
 13日 須和間自治会 総会  
 14日 米国原子力学会ランドマーク賞  
 受賞記念講演会  
 16日 青少年育成東海村民会議 定期総会  
 17日 看護師不足、後期高齢者医療・学習会  
 29日 日立地区メーデー
- (5月)  
 9日 原子力事業計画説明会  
 12日 行政視察（長野県飯田市）  
 13日 行政視察（東京都文京区）  
 21日 連合茨城・街頭宣伝行動（東海駅）  
 23日 四川大地震・街頭募金活動（日立駅）  
 25日 民主党県連・自治体議員研修会  
 27日 日立AP労組多賀支部OB会・総会
- (6月)  
 1日 東海村・春の一斉クリーン作戦  
 2日 ◆6月議会 開会  
 4日 連合茨城・政策制度討論集会  
 12日 ◆6月議会 一般質問  
 16日 ◆6月議会 閉会  
 17日 日立労組国分支部OB会・総会  
 18日 行政視察（東海第二発電所）  
 20日 部原地区・地権者意見交換会  
 28日 地域代表者会議

● 四川大地震・街頭募金活動

民主党の議員団として、日立駅前にてミャンマーのサイクロン、および中国・四川大地震の被災者を支援する募金活動を実施しました。

帰宅の途につく会社員や学生の皆さまにご協力を頂き、3日間で 207,060 円もの義援金を集めることが出来ました。ご協力頂いた皆さまに感謝申し上げます。

募金活動を通じて、災害に対する関心の高さと人の温もりを、改めて感じる事ができました。



● 東海村・春の一斉クリーン作戦



電機連合の組合員さんのご協力のもと、恒例のクリーン作戦を実施しました。当日は、約30名のご参加を頂き、R6マルカワ食堂周辺のゴミを収集しました。

みんなで拾ったゴミの山を見ると、一見充実した活動に思えるのですが、心無い人の何気ない行動から、こんなに多くのゴミが捨てられている現実を考えると、虚しい思いです。

クリーン作戦をやらなくても、ゴミの無い「きれいな街づくり」を目指したいものです。

編集後記

中国・四川省を襲った大地震。対岸の火事と思いきや、わずか1ヶ月後に「岩手・宮城内陸地震」が発生した。死者の数は12名に上り、行方不明10名の捜索活動も難航している。

そんな中、県内自治体の公立小中学校の耐震化率が報じられ、本村は全国平均を下回る 40.5%であった。現行の耐震基準に満たない建物は、順次建て替えや補強を計画しているが、一刻も早い対応が必要である。

10月に本村で開催される介護保険推進全国サミットのシンボルとして役場玄関に展示されている「転ばぬ先の杖」。

この先人の教えを、行政全般の心得として重く受け止めたい。

VOICE

東海村に住んで37年、生まれ故郷で過ごした2倍以上の月日になる。二人の子供は東海村で生まれ育ち、れっきとした「東海っ子」である。

2年前に、戸塚に嫁いだ娘に子供ができ、爺と呼ばれるようになった。娘が「ふるさと」として孫を連れて帰ってくるが、孫の屈託の無い行動と、穢れの無い目を見ていると、東海村はこれで良いのかと不安が過ぎる。

この37年間、団地の周りに原子力関連施設や遊戯施設ができることと、その都度反対したが、行政と事業者の厚い壁に押し切られてきた。さらに、新たな産廃処理施設が2ヶ所できるとのこと。

財政の豊かな村というが、公害の無い安心して暮らせる環境こそ、真の「豊かさ」ではないか？

我々の代弁者として、越智議員の若いパワーに期待する。



藤岡慎英さん  
(緑ヶ丘在住)

# わかば通信

東海村議会議員 **越智たつや** 議会報告

第2号  
H20年7月発行

発行人：越智たつや後援会  
 日立市幸町2-13-6  
 (日立製作所労働組合 日立支部内)  
 TEL 0294(22)3004  
 FAX 0294(23)2629



日頃のご支援に感謝申し上げます。  
 「越智たつや」は、常任委員会や特別委員会などの委員会活動、さらには支援者の皆さまから寄せられる相談対応など、議員としての活動が本格化し、村内を駆け回っております。  
 さて、6月から9月までの期間、日本政府からの地球温暖化防止の国民運動「チーム・マイナス6%」の協力要請により、ノーネクタイ、ノージャケットでの軽装「クールビズ」が社会的に励行されております。



「越智たつや」も、この季節は『クールビズ』にて議員活動を実施しますので、皆さまのご理解をお願いします。

▲『クールビズ』の意思を示すネクタイピン

NEWS ～ 東海村の身近なニュースをお伝えします ～

新規事業 **東海村の農業振興策と成り得るか？**  
 ファーマーズマーケット

新緑の季節となり、5月～6月にかけて村内の農作地域では、田植えや干しイモの苗植え作業がピークを迎えました。農業従事者は、安心・安全な「食」の提供を目指すと共に、直面する担い手不足への対応に苦慮しています。

東海村では、「福祉・教育・環境・農業」を行政の4本柱に位置付け、農業振興も重点的に取り組んでいます。その一環として、今年度、東海村の地産地消の拠点として、仮称「東海村農業情報発信館」を建設します。H21年5月の開業に向け、建物のレイアウトなど序々に形が見えつつありますが、直売所に並べる地元産農作物の調達ほか、運用面では課題が山積しているように感じます。

自給率向上や地産地消など「食」に対する世論が高まるなか、本村においても、真の農業振興策を見つめ直す重要な時期に来ているのではないのでしょうか。



▲干しイモの苗植え（須和間地区）



